



駒井家住宅(駒井卓・静江記念館)は、遺伝学者であった駒井卓博士の住居であり、昭和初期の洋風住宅として質が高く、また建築当初の状態がよく保存されています。米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズが円熟期にさしかかった時代の住宅建築で、昭和初期における代表的な作品ともいえます。1998(平成10)年3月、当住宅は、歴史的、文化的価値が高い建造物として、京都市指定有形文化財に指定されました。所有者である駒井喜雄氏とそのご家族が、「この建物と景観、ならびに駒井卓・静江夫妻の実績を未来に伝え残したい」と念願され、2002(平成14)年7月、土地および建物を公益財団法人日本ナショナルトラストに寄贈されたものです。

公益財団法人日本ナショナルトラストは、日本のすぐれた文化財や自然の風景地などを保全し、利活用しながら後世に継承していくことを目的に、英国の環境保全団体である「ザ・ナショナルトラスト」を範として、1968年に設立された特定公益増進法人(免税団体)です。市民参加による保護対象の取得、修復、整備、公開などの保護活用を積極的におこなっています。

公益財団法人日本ナショナルトラストは特定公益増進法人(免税団体)です。2千円を超える寄付をされた場合、所得税および法人税控除の対象になります。

駒井家住宅では、会員のボランティアにより解説や清掃をおこなっています。あなたのご参加をお待ちしています。

公益財団法人日本ナショナルトラスト

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル
TEL 03-6380-8511
FAX 03-3237-1190
http://www.national-trust.or.jp E-mail info@national-trust.or.jp

公開

毎週金曜日・土曜日 10時～16時(入館は15時まで)
(ただし、7月第3週から8月末・12月第3週から2月末までは、原則として休館となります。)

Open

入館料(維持修復協力金として)

一般：大人 500円 中学生・高校生 200円 Admission
小学生以下は無料(ただし保護者同伴のこと)
(公財)日本ナショナルトラスト会員：無料

交通案内

Access
[鉄道] 叡山電鉄「茶山」駅下車 徒歩7分
[市バス] 3番 上終町ゆき「伊織町」下車 徒歩2分
北白川仕伏町ゆき「北白川小倉町」下車 徒歩4分
5番 岩倉操車場ゆき
「上終町京都造形芸大前」下車 徒歩4分
204番 錦林車庫ゆき「伊織町」下車 徒歩2分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



見学にあたっての注意

- ☐ 団体見学(10名以上)は、事前に予約が必要です。
- ☐ 室内の写真撮影は個人の使用に限り可能です。
(ただし、三脚の使用はご遠慮ください。)
- ☐ 邸内は禁煙・飲食禁止です。

Property of Japan National Trust

Dr.Komai's Residence



駒井家住宅

駒井卓・静江記念館



Japan National Trust
for Cultural and Natural Heritage Conservation

公益財団法人 日本ナショナルトラスト



駒井家住宅(駒井卓・静江記念館)

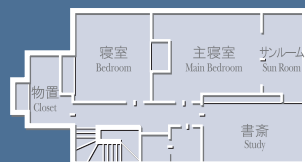
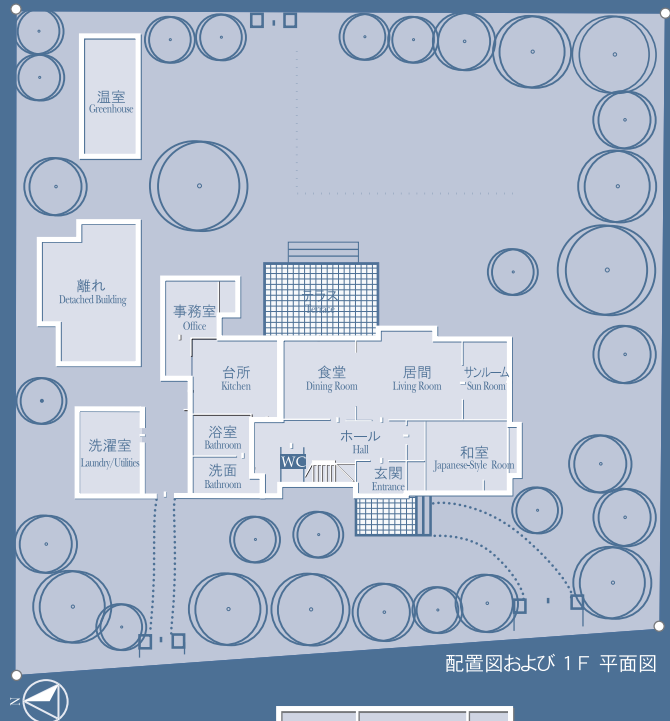
〒606-8256 京都府京都市左京区北白川伊織町64
TEL・FAX 075-724-3115(公開日のみ)

駒井家住宅の特徴

駒井家住宅は、大正末から昭和初期に形成された京都市左京区北白川の閑静な住宅地にあります。京都帝国大学理学部教授であった駒井卓博士の住居として、1927(昭和2)年に建てられました。設計は、ヴォーリズ建築事務所によるものです。桜並木がある白川疎水に面し、約30メートル四方の敷地の西よりに建てられ、比叡山が一望される東に庭を広く設けています。主棟は約30坪、木造2階建てで、その北側に5坪程の付属屋と書生部屋として使われていた約10坪2階建ての離れ、温室を有しています。

外観は当時アメリカで流行していた、アメリカン・スパニッシュ様式を基調とした意匠になっています。屋根は切妻屋根の赤色棧瓦葺で、外壁面はモルタルのスタッコ仕上げになっています。

内部は1階に玄関ホール、居間、食堂、6畳室を配し、2階に寝室、書斎等を設けており、洋風住宅プランの一角に和室を加えた折衷的な間取りとなっています。



室内の意匠にも随所に行き届いた設備が見られます。ホールの階段は実用性を重視したデザインでありながら、そのやわらかい曲線は造形的にも優れた表現に達しています。居間を特徴づける腰掛付きの出窓は実用的でありつつ、装飾的効果も与えています。6畳和室の上げ下げ窓と障子を併用した出窓は、和風洋風の外観と和室の意匠を巧みに融合させています。



左：季節ごとに庭園を彩るさまざまな草花や樹木

左下：スパニッシュを基調にした半円アーチの飾り窓

右下：室内外で色を使い分けられているドアノブ



駒井卓博士と静江夫人

駒井卓(1886～1972)は、兵庫県姫路市に生まれ、姫路中学から東京高等師範学校に進学、1908(明治41)年に卒業後、東京帝国大学理学部動物学選科に入学しました。1917(大正6)年に修了後、1921(大正10)年、京都帝国大学へ転じ、1923(大正12)年より2年間米国コロンビア大学へ留学し、ショウジョウバエの研究をおこないました。帰国後はわが国において新しい遺伝学を発展させました。日本遺伝学会長(1927～1928)、東京大学教授(1928～1932)、京都大学理学部長(1944～1946)などを歴任し、動物分類学、動物遺伝学に大きな功績を残しました。また、昭和天皇に生物学を教授された学者としても知られています。

一方、夫人である静江(1890～1973)は、四国にある丸亀教会を設立した牧師、青野兵太郎の次女として生まれ、神戸女学院英語科を卒業、卓博士の米国留学にも同行しています。後年、ヴォーリズに嫁いだ一柳満喜子とは、神戸女学院時代の学友でした。静江夫人は、京都において積極的にクリスチャン活動をした先進的な女性でした。



左：駒井卓・静江夫妻
(写真：駒井家所蔵)

下：居間でくつろぐ夫妻
(写真：駒井家所蔵)



Dr.Komai's Residence



駒井家住宅
駒井卓・静江記念館